

2025_0126 「北極圏の紫色の空（写真）」日々の理科 3825号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

北緯 67 度付近の北極圏では、24 時間太陽が地平線上に昇らない「極夜」の時期はすでに終わっています。しかしまだ夜の時間のほうが圧倒的に長く、「朝焼けのあと、ほんの短時間太陽が見えて、そのまま夕焼けになる」という感じの日々が続きます。

その朝焼けの前の 1 時間、夕焼けのあとの 1 時間ほど、空が驚くほど紫色に見えることがあります。これは、地球影による現象です。「地球影（ちきゅうえい）」というのは、地球そのものの影が大気に投影される現象で、よく晴れた日の出前や日没後に、日本でも普通に見られます。しかし日本では地球影の継続時間はせいぜい 15～20 分程度です。しかし地平線下の「マイナスの太陽高度」がなかなか変化しない北極圏では、この地球影が 1～2 時間も継続することがあるのです。この日の北極圏の空も、怖いほど完全に紫色でした。

(2025 年 1 月下旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス／東京から遠隔観測)

